

音楽科学習指導案

1 日 時 平成 年 月 日 () ~ 月 日 () 全6時間

2 学年・組 第 学年 組 (名)

3 場 所 年 組教室

4 題 材 我が国や郷土の伝統音楽の魅力を味わおう～民謡のはやしことばで遊ぼう～

5 題材の目標

民謡に使われているはやしことばの音色やリズム，速度などに親しみ，それらを生かして自分たちの音楽をつくる活動を通して，我が国や郷土の伝統音楽の特徴や演奏のよさを味わう。

6 本題材と学習指導要領のかかわり

・指導事項 A表現(3)音楽づくりイ， B鑑賞(1)イ

〔共通事項〕 ア(ア)音色・リズム・速度・強弱 (イ)反復・変化

7 題材設定の意図

(1) 題材について

本題材は，民謡に使われているはやしことばの音色やリズム，速度などに親しみ，それらを生かして自分たちの音楽をつくる活動を通し，我が国や郷土の伝統音楽の特徴や演奏のよさを味わうことをねらいとした題材である。

学習指導要領の鑑賞の指導事項では，主に「楽曲を全体にわたり感じ取ること」「楽曲の構造を理解して聴くこと」「楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること」の三つが挙げられている。また，音楽づくりの指導における配慮事項では，「拍節的でないリズム，我が国の音楽に使われている音階や調性にとらわれない音階などを児童の実態に応じて取り上げるようにすること」とある。

そこで，第1時の新しい楽曲との出会いの場面では，民謡を聴いて感じたことを話し合い，音楽のどこからそう感じたのかをもう一度問い返すことで，音楽を形づくっている要素の関わり合いによってつくられる楽曲の構造を理解して聴くことができるようにしたい。

第2時から第4時までは，鑑賞の活動で学んだ，音楽を形づくっている要素を聴き取り，そのよさを感じ取る力を生かし，民謡のはやしことばを使った音楽をつくる。第5時では，つくった音楽を発表し，聴き合うことで，それぞれがつくった音楽のよさを交流し認め合う場としたい。

第6時では，音楽づくりで培った力を生かし，再び鑑賞する活動を行う。第1時で聴いた曲をもう一度聴き，感じたことや気付いたことを振り返ることにより，音楽を形づくっている要素に改めて気付くことができるようにしたい。また，民謡の紹介文を書いて，友だちに楽曲の特徴や演奏のよさを伝えるとともに，我が国や郷土の伝統音楽を大切にしたいという思いをもつことができると考える。

このように，鑑賞と表現(音楽づくり)の活動を関連付けて学習を進めることで，主体的・創造的に取り組む力の育成を目指したい。また，このような学習の積み重ねが，音楽と生活との関わりに関心をもち，生涯にわたり音楽文化に親しむ態度を育むことにつながると考える。

(2) 題材の構造図

民謡のはやしことばで遊ぼう

題材の目標：民謡に使われているはやしことばの音色やリズム，速度などに親しみ，それらを生かして自分たちの音楽をつくる活動を通して，我が国や郷土の伝統音楽の特徴や演奏のよさを味わう。(全6時間)

…題材を通して指導する，〔共通事項〕に示された音楽を形づくっている要素

(①時間目)

民謡を聴き，お気に入りのはやしことばを見つけよう。

花笠音頭

「チョイチョイ」
「ハーヤッショマカシヨ」

阿波よしこの節

「アーラ エライコッチャエライコッチャ
ヨイヨイヨイヨイ」「ホウイホイホイ」

ちゃっきり節

「チャッキリチャッキリ
チャッキリヨ」

木曾節

「ナンチャラホイ」
「ヨイヨイヨイ」

福知山音頭

「チョイチョイ」「ドッコイセドッコイセ
トドッコイドッコイドッコイセ」

金毘羅舟々

「シュラシュシュ」

◇鑑賞1H

<感じたこと>

・面白い。 ・楽しそう。 ・お祭りみたい。 ・昔っぽい。 ・日本らしい。

<気付いたこと>

・声の出し方に特徴があり，高くなったり低くなったりする。(音色) ・のぼす音が多い。(リズム)
・声に強弱がある。 ・ゆっくりの民謡もあれば，速い民謡もある。(速度)
・はやしことばがくり返し聴こえてくる。(反復)

気に入ったはやしことばを見つけられたね。

～鑑賞の活動で学んだことを生かして，
音楽づくりの活動へ～

民謡の曲の感じを生かして，はやしことばを使った音楽をつくろう。

グループで
(②～④時間目)

音色

リズム

速度

強弱

反復

変化

○音楽づくり4H

<かざりのリズム>
高い音。リズムは細かく時々入る。

<主なリズム>
音の高さは自由。リズムも自由。

<きざみのリズム>
音の高さは自由。リズムは一定。

<ベースのリズム>
低い音。リズムはゆったり。

②はやしことばをつかったリズムをつくる。③つかったリズムを重ねる。
④まとまりのある音楽をつくる。

・つかったリズムをどのように重ねるか考えよう。 ・何回か反復しよう。
・はじめはだんだん速くして，おわりはみんなで一斉に言ってから終わろう。
・一人とみんなで交互に音を重ねたり，急に入れたりすると面白いね。

民謡の曲の感じを生かした音楽をつくることができたね。

クラスで
(⑤時間目)

発表して聴き合う

～音楽づくりで培った力を生かして，
再び鑑賞の活動へ～

(⑥時間目)

もう一度民謡を聴いて，曲の魅力を紹介しよう。

選んだ民謡の曲

◆鑑賞1H

・声が高くなったり低くなったり(音色)変化しているから面白いね。
・何回か反復されてはやしことばが聴こえてくるよ。
・どんなときに歌われるかによって，速度や強弱などが違うね。
・ほかにどんな民謡があるのか知りたいな。 ・京都の民謡はほかにあるのかな。

わたしたちが感じた民謡のよさを，もっとみんなに伝えたいな。

8 教材について

「花笠音頭」(山形県民謡)

山形県を代表する踊り歌。大正8~10年にかけて行われた徳良湖の灌漑工事で、人々が景気をつけるために歌った作業歌(土つき歌)がもとになったとされている。現在のように和太鼓が入り「花笠音頭」として民謡化されたのは昭和初期のことである。はやしことばは「チョイチョイ」「ハーヤッ ショマカシヨ」である。ファとシ抜き(ヨナ抜き)音階である(以降の民謡全て)。音の高低差や、ゆるやかな変化があり、はやしことばを使った音楽づくりに適した教材である。

めでためでたの若松様よ 枝もチョイチョイ 栄えて葉も茂る
ハー ヤッ ショマカシヨ
花の山形 紅葉の天童 雪を チョイチョイ 眺むる尾花沢
ハーヤッ ショマカシヨ

「木曾節」(長野県民謡)

長野県南西部の木曾川流域の盆踊り歌。木曾の山から切り出された材木を木曾川まで流す仕事に携わっていた修験道者たちによって歌われた労作歌ではないかという説がある。1915年に、観光行事の一つとして踊りを取り入れ、現在に至っている。はやしことばは「ナンチャラホイ」「ヨイヨイヨイ」である。音の高低差や反復があり、はやしことばを使った音楽づくりに適した教材である。

木曾のナーナカノリサン 木曾の御岳ナンチャラホイ
夏でも寒いヨイヨイヨイ
あわしょナーナカノリサン あわしょやりたやナンチャラホイ
足袋よ添えてヨイヨイヨイ

「ちゃつきり節」(静岡県民謡) 作詞:北原白秋 作曲:町田嘉章

昭和2年、静岡鉄道が開園した旅館で客に聴かせる三味線歌として作られた新民謡である。清水の次郎長や松尾芭蕉の俳句などのほか、はやしことばとして茶切りばさみのリズムが取り入れられるなど、工夫が凝らされている。はやしことばは「チャッキリチャッキリチャッキリヨ」である。音の高低差がはっきりとしていて、音楽づくりに適した教材である。中学校第1学年の鑑賞CDに収録されている。

唄はちゃつきり節 男は次郎長 花は橘 夏は橘 茶の香り
チャッキリチャッキリチャッキリヨ 蛙(きやある)が鳴くんで 雨ずらよ

「金毘羅舟々」(香川県民謡)

“こんぴらさん”の愛称で知られる香川県の「金毘羅大権現」は、江戸時代、漁民や農民の厚い信仰があり、それが一般の人々にも浸透し、大変なにぎわいであった。「金毘羅舟々」はこの頃の様子を歌ったものである。はやしことばは「シュラシュシュシュ」である。「シュ」という言葉と反復が、音楽づくりに適した教材である。

金毘羅舟々 追手に帆かけてシュラシュシュシュ
まわれば四国は讃州(さんしゅう)那珂(なか)の郡(ごおり)
象頭山(ぞうずさん)金毘羅大権現 一度まわれば
四国名物 御生楽踊りシュラシュシュシュ
踊らにや損だよ 夜明けの鳥の
鳴くまで踊るよ 阿波踊り 一度まわれば

「阿波よしこの節」(徳島県民謡)

江戸時代後期にはやった酒盛り歌。徳島城主の蜂須賀家政が、築城の祝いとして町人に無礼講を許し、町人たちが踊ったのが「阿波踊り」の始まりとされる。三味線、当り鉦、締太鼓、篠笛などの楽器でにぎやかに演奏される。はやしことばは「アーラエライコッチャエライコッチャヨイヨイヨイヨイ」「ホウイホイホイ」である。音の高低差や、ゆるやかな変化があり、はやしことばを使った音楽づくりに適した教材である。中学校第1学年の鑑賞CDに収録されている。

アーラ エライコッチャエライコッチャヨイヨイヨイヨイ
阿波の殿様蜂須賀さまが 今に残せし阿波踊り

アーラ エライコッチャエライコッチャヨイヨイヨイヨイ
 笹山通れば笹ばかり 大谷通れば石ばかり 猪豆食って ホウイホイホイ

「福知山音頭」(京都府民謡)

京都府の福知山に伝わる盆踊り歌。16世紀後半に、丹波地方を平定していた明智光秀による築城の折、領民たちが材木や石材を運ぶときに、作業歌として「ドッコイセドッコイセ」というかけ声と共に歌われたのがもとになったとされている。はやしことばは「ドッコイセドッコイセトコドッコイドッコイドッコイセ」である。郷土の伝統音楽として、はやしことばを使った音楽づくりに適した教材である。中学校第1学年の鑑賞CDに収録されている。

福知山出て 長田野越えて チョイチョイ
 駒を早めて亀山へ ドッコイセドッコイセトコドッコイドッコイドッコイセ

9 題材の評価規準及び評価の視点

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
音楽づくり	○	○	○	
鑑賞	○			○
題材の評価規準	曲想とその変化などの特徴、楽曲の構造、楽曲の特徴や演奏のよさ、音楽の仕組みに興味・関心をもち、鑑賞や音楽づくりの学習に主体的に取り組もうとしている。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音を音楽に構成していくことを工夫し、どのようにはやしことばを使った音楽をつくるかについて見通しをもっている。	音楽の仕組みを生かすなどの基礎的な技能を身に付けて、音を音楽に構成している。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、曲想とその変化などの特徴を感じ取ったり、楽曲の構造、楽曲の特徴や演奏のよさを理解したりして、味わって聴いている。
評価の視点	①楽曲全体にわたる曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴く学習に主体的に取り組もうとしている。 ②鑑賞の活動で学んだ、音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成することに興味・関心をもち、見通しをもってはやしことばを使ったリズムをつくる学習に主体的に取り組もうとしている。	①鑑賞の活動で学んだ、音色・リズム・速度・強弱・反復・変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、どのようにつくったリズムを重ねるかについて自分の考えや見通しをもっている。 ②鑑賞の活動で学んだ、音色・リズム・速度・強弱・反復・変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りな	①鑑賞の活動で学んだ、反復や変化などの音楽の仕組みを生かし、見通しをもってまとまりのある音楽をつくっている。	①音色・リズム・速度・強弱・反復・変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽を形づくっている要素の関わり合いによってつくられる楽曲の構造を理解して聴いている。 ②音楽づくりの活動で培った力を生かし、曲想とその変化などの特徴や音色・リズム・速度・強弱・反復・変化などの関わり合いから、想像したことや感じ取ったことを紹介文に表すなど

		<p>がら、音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、どのようにまとまりのある音楽をつくるかについて、自分の考えや願い、意図、見通しをもっている。</p>		<p>して、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴いている。</p>
--	--	--	--	----------------------------------

10 指導と評価の計画（全6時間）

	○研究テーマにせまるための 主な学習活動	 本研究との関わり	評価の視点 (評価の方法)
第1次 1	<p><ねらい> 民謡に使われているはやしことばの音色やリズム，速度などに親しみ，音楽を形づくっている要素の関わり合いによってつくられる楽曲の構造を理解して聴く。</p> <p><教材> 「花笠音頭」「木曾節」「ちゃつきり節」「金毘羅舟々」「阿波よしこの節」「福知山音頭」</p> <p>[共通事項] ア (ア) 音色・リズム・速度・強弱 (イ) 反復・変化</p>		
1	<p>○民謡を聴きお気に入りのはやしことばを見つける活動を通して，楽曲全体にわたる曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴く。</p>	<p>*聴くポイントを変えて何回も曲を聴くことにより，音楽を形づくっている要素である音色・リズム・速度・強弱・反復・変化などに気付くことができるようにする。</p>	<p>【アー①】 楽曲全体にわたる曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴く学習に主体的に取り組もうとしている。 (聴いている様子の観察・発言・学習カード)</p> <p>【エー①】 音色・リズム・速度・強弱・反復・変化などを聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら，音楽を形づくっている要素の関わり合いによってつくられる楽曲の構造を理解して聴いている。 (聴いている様子の観察・発言・学習カード)</p>
第2次 4	<p><ねらい> 鑑賞の活動で学んだ，音色・リズム・速度・強弱・反復・変化などを聴き取り，そのよさを感じ取る力を生かし，はやしことばを使った音楽をつくる。</p> <p><教材> (参考教材)「花笠音頭」「木曾節」「ちゃつきり節」「金毘羅舟々」「阿波よしこの節」「福知山音頭」</p> <p>[共通事項] ア (ア) 音色・リズム・速度・強弱 (イ) 反復・変化</p>		

2	○音を音楽に構成することに興味・関心をもち、はやしことばを使ったリズムをつくる。	*鑑賞の活動で学んだ、音色・リズム・速度・強弱・反復・変化などの音楽を形づくっている要素を聴き取り、そのよさを感じ取る力を生かすことにより、はやしことばを使ったリズムをつくることができるようにする。	【アー②】 鑑賞の活動で学んだ、音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成することに興味・関心をもち、見通しをもってはやしことばを使ったリズムをつくる学習に主体的に取り組もうとしている (つくっている様子の観察・発言・アレンジカード・学習カード)
3	○つくったリズムをどのように重ねるかについて、見通しをもつ。	*鑑賞の活動で学んだ、音色・リズム・速度・強弱・反復・変化などの音楽を形づくっている要素を聴き取り、そのよさを感じ取る力を生かすことにより、つくったリズムを重ねることができるようにする。	【イー①】 鑑賞の活動で学んだ、音色・リズム・速度・強弱・反復・変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、どのようにつくったリズムを重ねるかについて自分の考えや見通しをもっている。 (つくっている様子の観察・演奏の聴取・発言・アレンジカード・学習カード)
4	○どのようにまとまりのある音楽をつくるかについて、見通しをもつ。	*鑑賞の活動で学んだ、音色・リズム・速度・強弱・反復・変化などの音楽を形づくっている要素を聴き取り、そのよさを感じ取る力を生かすことにより、まとまりのある音楽をつくることができるようにする。	【イー②】 鑑賞の活動で学んだ、音色・リズム・速度・強弱・反復・変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、どのようにまとまりのある音楽をつくるかについて、自分の考えや願い、意図、見通しをもっている。 (つくっている様子の観察・演奏の聴取・発言・アレンジカード・学習カード)
5	○まとまりのある音楽をつくる。	*鑑賞の活動で学んだ、反復・変化などの音楽の仕組みを生かすことにより、まとまりのある音楽をつくることができるようにする。	【ウー①】 鑑賞の活動で学んだ、反復や変化などの音楽の仕組みを生かし、見通しをもってまとまりのある音楽をつくっている。 (演奏の聴取・発言・アレンジカード・学習カード)

<p>第 3 次 1</p>	<p><ねらい> 音楽づくりの活動で培った力を生かし、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴く。</p> <p><教材> 「花笠音頭」「木曾節」「ちゃつきり節」「金毘羅舟々」「阿波よしこの節」「福知山音頭」</p> <p>[共通事項] ア (ア) 音色・リズム・速度・強弱 (イ) 反復・変化</p>		
<p>6</p>	<p>○もう一度民謡を聴き、曲のよさを紹介する。</p> <p>(紹介文の例) 「木曾節」は、長野県の民謡です。仕事をしている人々によって歌われたといわれています。「ナンチャラホイ」や「ヨイヨイヨイ」のはやしことばが使われています。のぼす音が多く、「ナンチャラホイ」は声が高くなったり低くなったりして面白いです。はやしことばは、何回かくり返して出てきます。ぜひ聴いてみてください。</p>	<p>*何回か曲を聴くことにより、音楽を形づくっている要素である音色・リズム・速度・強弱・反復・変化などに気付くことができるようにする。</p> <p>*①使われているはやしことば、②音楽を形づくっている要素などを用いて紹介文を書くことにより、曲の特徴や演奏のよさを伝えることができるようにする。</p>	<p>【エー②】 音楽づくりの活動で培った力を生かし、曲想とその変化などの特徴や音色・リズム・速度・強弱・反復・変化などの関わり合いから、想像したことや感じ取ったことを紹介文に表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴いている。 (聴いている様子の観察・発言・紹介文)</p>

1.1 本時の学習（1／6時）

- (1) 目標 ・ 楽曲全体にわたる曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴く学習に主体的に取り組む。
 ・ 音色・リズム・速度・強弱・反復・変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽を形づくっている要素の関わり合いによってつくられる楽曲の構造を理解して聴く。

(2) 展開

学習活動 「 」発問 ・ 子どもの反応	*支援 ○留意点 ■ 本研究との関わり	評価の視点 (評価の方法)
1 本時のめあての確認をする。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 民謡を聴き、お気に入りのはやしことばを見つけよう。 </div>		
2 民謡を聴き、はやしことばを見つける。 「民謡に使われているはやしことばを聴き取り、気に入った言葉を見つけましょう。」 ・ チョイチョイ ハーヤッショマカシヨ ・ ナンチャラホイ ヨイヨイヨイ ・ チャッキリチャッキリチャッキリヨ 3 曲を聴いて、感じたことや気付いたことを交流する。 「グループに分かれて、感じたことや気付いたことを話し合ひましょう。」 <感じたこと> ・ 面白い。 ・ 楽しそう。 ・ 日本らしい感じがする。 <気付いたこと> ・ 声の出し方に特徴がある。 ・ 音が高くなったり低くなったりする。 ・ のばす音が多い。 ・ はやしことばがくり返し聴こえてくる。	*題材の流れを提示することにより、学習の見通しをもつことができるようにする。 ○民謡は、その土地の人々のくらしの中から生まれ、少しずつ形を変えながら、現在も歌いつがれている音楽であることを伝える。 ○はやしことばは、歌詞とは関係のない短い言葉で、歌い手を元気付けたり、歌詞のリズムを整えたりする働きがあることを伝える。 ○グループで気に入ったはやしことばを一つ見つけるよう伝える。 ○〔共通事項〕カード（音楽を形づくっている要素が書かれたカード）を提示する。 ○グループごとにCDを用意する。 *声に着目して感じたことを話し合ひ、音楽のどこからそう感じたのかを考えることにより、音楽を形づくっている要素と関連させることができるようにする。 <div style="border: 2px dashed black; padding: 5px;"> *聴くポイントを変えて何回も曲を聴くことにより、音楽を形づくっている要素である音色・リズム・速度・強弱・反復・変化などに気付くことができるようにする。 </div>	【アー①】 楽曲全体にわたる曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴く学習に主体的に取り組もうとしている。 (聴いている様子の観察・発言・学習カード) 【エー①】 音色・リズム・速度・強弱・反復・変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽を形づくっている要素の関わり合いによってつくられる楽曲の構造を理解して聴いている。 (聴いている様子の観察・発言・学習カード)
4 グループで話し合ったことを全体で交流する。 「感じたことや気付いたことを発表しましょう。」 ・ 音が高くなったり低くなったりしたから面白い感じがしました。 ・ はやしことばがくり返し聴こえてきて楽しい感じがしました。	○感じたことと気付いたことを、分けて板書する。 *グループで話し合ったことを交流することにより、それぞれの民謡のよさを見つけることができるようにする。	
5 次時の予告をする。 「次時からは、民謡の曲の感じを生かして、気に入ったはやしことばを使った音楽をつくっていきましょう。」	○学習したことを、学習カードに書く。 ○次時から、グループに分かれて気に入ったはやしことばを使った音楽をつくることを予告する。	

(3) 評価活動の実際

【音楽への関心・意欲・態度】(1/6時)

評価の視点とその具体の姿	
○評価の視点 【ア-①】 楽曲全体にわたる曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴く学習に主体的に取り組もうとしている。	
○支援が必要とされる子どもへの働きかけ ・民謡の曲想や特徴が聴き取りにくい子どもには、友だちの意見を参考にしたり、指導者が声をかけたりして、曲の特徴に気付くことができるようにする。	○質的に高まった状況 ・曲のよさを感じながら聴いたり、発言したりする活動に意欲的に取り組んでいる。
○具体的な評価方法 ・楽曲全体にわたる曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴く学習に進んで取り組んでいるかどうかを、聴いている様子の観察・発言・学習カードから見取る。	

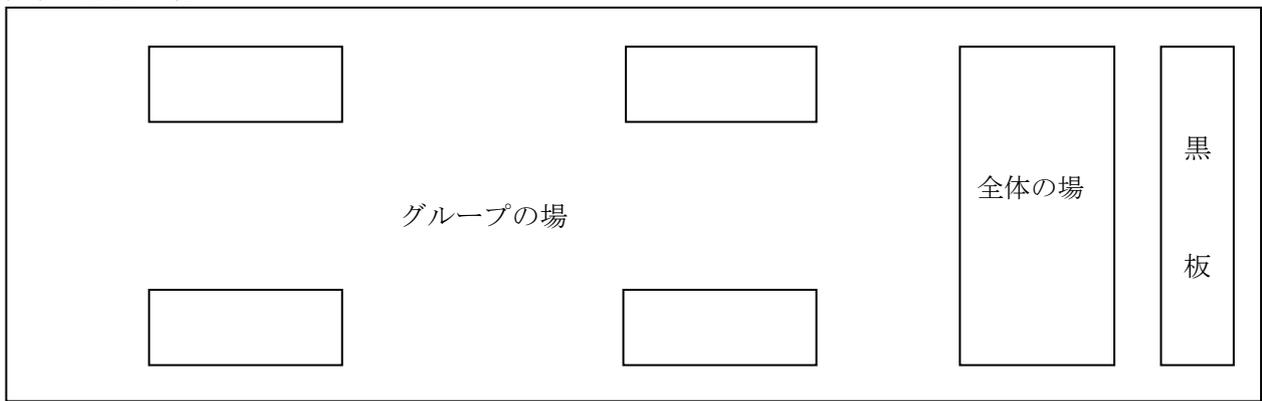
【鑑賞の能力】(1/6時)

評価の視点とその具体の姿	
○評価の視点 【エ-①】 音色・リズム・速度・強弱・反復・変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽を形づくっている要素の関わり合いによってつくられる楽曲の構造を理解して聴いている。	
○支援が必要とされる子どもへの働きかけ ・音楽を形づくっている要素を聴き取りにくい子どもには、[共通事項]カードの掲示を見て、どれにあてはまるかを考えるように助言する。 ・学習カードに書くことができにくい子どもには、板書を参考にしたり、音楽を形づくっている要素を用いて書いたりするように助言する。	○質的に高まった状況 ・感じたことや気付いたことについて、音楽を形づくっている要素を用いて、積極的に発言している。 ・音楽を形づくっている要素を的確に用い、学習カードに書いている。
○具体的な評価方法 ・感じたことや気付いたことを、音楽を形づくっている要素と関連付けて考えられているかどうかを、聴いている様子の観察や発言、学習カードから見取る。	

(4) 板書計画

民謡を聴き、お気に入りのはやしことばを見つけよう。				題材の学習の流れ 
<曲名>	<都道府県>	<はやしことば>	<どのようにしてできたのか>	
○花笠音頭	山形県	「チョイチョイ」 「ハーヤッショマカシヨ」 「ナンチャラホイ」 「ヨイヨイヨイ」 「チャッキリチャッキリ チャッキリヨ」	仕事 仕事 お祝い	感じたこと 気付いたこと
○木曾節	長野県			
○ちゃつきり節	静岡県			
	など	など	など	

(5) 活動の場



1 1 本時の学習（2／6時）

(1) 目標 鑑賞の活動で学んだ、音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成することに興味・関心をもち、見通しをもってはやしことばを使ったリズムをつくる学習に主体的に取り組む。

(2) 展開

学習活動 「 」発問 ・子どもの反応	*支援 ○留意点 ■本研究との関わり	評価の視点 (評価の方法)
1 本時のめあての確認をする。		
民謡の曲の感じを生かして、はやしことばを使った音楽をつくろう。		
<p>2 音楽をつくるときの工夫について、全体で話し合う。 「全体でリズムのつくり方を確認しましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四つのパートに分かれて、1小節分4拍のリズムをつくる。 ・<ベースのリズム> 低い音。リズムはゆったり。 ・<きざみのリズム> 音の高さは自由。リズムは一定。 ・<主なリズム> 音の高さは自由。リズムも自由。 ・<かざりのリズム> 高い音。リズムは細かく時々入る。 	<p>*はやしことばを使ってお話をする活動を例示したあと全員で試してみることにより、言葉の抑揚やリズムの面白さに気付くことができるようにする。</p> <p>*範奏を聴き、どのような工夫をしているのか全員で試してみることに より、これからの活動の見通しをもつことができるようにする。</p> <p>*全体で、リズムや楽譜のつくり方などを確認することにより、グループ活動がスムーズにできるようにする。</p>	
<p>3 グループに分かれて、四つのリズムをつくる。 「グループに分かれて四つのリズムをつくりましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面白い感じになるように、主なリズムは音の高低をはっきりさせよう。 ・楽しい感じになるように、かざりのリズムをもっと細かくしてみよう。 ・強弱をつけたり身体を動かしたりすると面白いね。 	<p>○グループ用の楽譜（アレンジカード）を用意し、話し合った工夫を書き込む。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">*鑑賞の活動で学んだ、音色・リズム・速度・強弱・反復・変化などの音楽を形づくっている要素を聴き取り、そのよさを感じ取る力を生かすことにより、リズムをつくることができるようにする。</p>	<p>【ア-②】</p> <p>鑑賞の活動で学んだ、音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成することに興味・関心をもち、見通しをもってはやしことばを使ったリズムをつくる学習に主体的に取り組もうとしている。</p>
<p>4 つくった音楽を何グループか発表し、全体で聴き合う。 「感じに合った音楽になっているかどうか、聴きましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面白い感じになるように、主なリズムは音の高低をはっきりしました。 ・時々入るかざりのリズムが楽しい感じがしたよ。 	<p>*どんな感じになるように音楽を工夫してつくったのかを伝えてから発表することにより、聴くポイントをもって聴くことができるようにする。</p> <p>*感じに合った音楽になっているかを交流することにより、つくった音楽のよさを認め合うことができるようにする。</p>	<p>(つくっている様子の観察・発言・アレンジカード・学習カード)</p>
<p>5 次時の予告をする。 「次時は、四つのリズムを重ねましょう。」</p>	<p>○民謡の曲の感じを生かして、はやしことばを使った音楽をつくるために、どのようなことに気をつけたかを、学習カードに書くようにする。</p>	

(3) 評価活動の実際

【音楽への関心・意欲・態度】(2/6時)

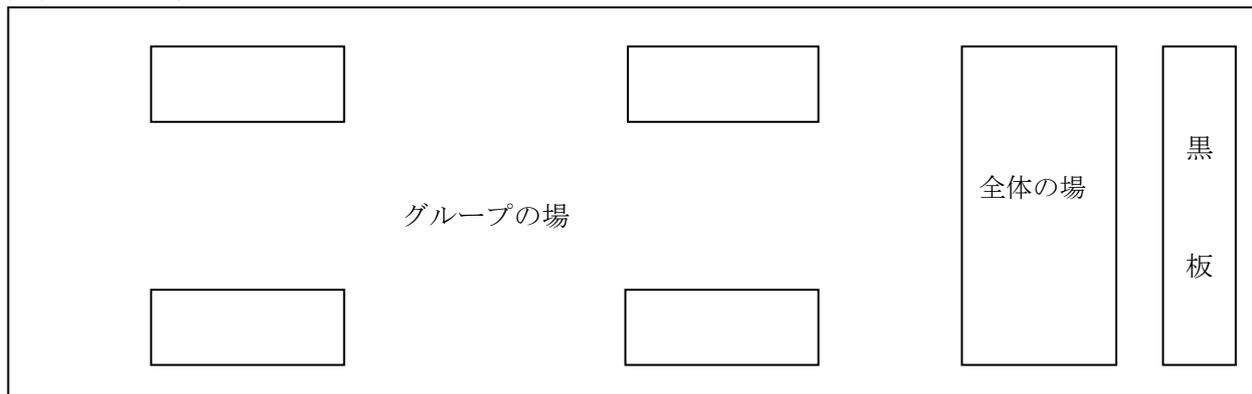
評価の視点とその具体の姿	
<p>○評価の視点 【ア-①】 鑑賞の活動で学んだ、音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成することに興味・関心をもち、見通しをもってはやしことばを使ったリズムをつくる学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	
<p>○支援が必要とされる子どもへの働きかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習で、進んで考えたり音楽をつくったりすることができにくい子どもには、グループの友だちの意見を聞いたり、友だちの声をよく聴いてつくったりするように助言する。 	<p>○質的に高まった状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よりよい演奏にしようと、グループのみんなに積極的に声をかけている。 ・表現の工夫に気付き、積極的に発言している。
<p>○具体的な評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はやしことばを使ったリズムをつくる学習に進んで取り組んでいるかどうかを、つくっている様子の観察・発言・アレンジカード・学習カードから見取る。 	

(4) 板書計画

民謡の曲の感じを生かして、はやしことばを使った音楽をつくろう。									
リズム例									
1小節									
①拍 ②拍 ③拍 ④拍 短く									
各グループの 曲の感じ 1 : 2 : 3 : 4 :	Aかざりのリズム 高い音。リズムは 細かく入る。	高 中 低	●	●	●	●	●	●	ヨイヨイ
	B主なリズム 音の高さは自由。 リズムも自由。	高 中 低	ヨイ	強く	ヨイ	ヨイ	ヨイ	ヨイ	弱く
	Cきざみのリズム 音の高さは自由。 リズムは一定。	高 中 低	ヨ	短く強く	イ	●	短く強く	イ	●
	Dベースのリズム 低い音。 リズムはゆったり。	高 中 低	ヨ	力強く	—	—	イ	ヨ	イ
			●						

※ ● は、休符を表す。

(5) 活動の場



1 1 本時の学習 (3 / 6 時)

- (1) 目標 鑑賞の活動で学んだ、音色・リズム・速度・強弱・反復・変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、どのようにつくったリズムを重ねるかについて自分の考えや見通しをもつ。
- (2) 展開

学習活動 「 」発問 ・子どもの反応	*支援 ○留意点 本研究との関わり	評価の視点 (評価の方法)
<p>1 前時の学習を想起する。 「前時につくった、四つのリズムを確認しましょう。」</p> <p>2 本時のめあての確認をする。</p>	<p>*前時の学習を想起することにより、学習の見通しをもつことができるようにする。</p>	
<p>民謡の曲の感じを生かして、つくったリズムをどのように重ねるとよいだろう。</p>		
<p>3 リズムの重ね方の工夫について、全体で話し合う。 「全体でリズムの重ね方を確認しましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重ね方を工夫して8小節分をつくるんだね。 ・いろいろな重ね方の工夫があるんだね。 ・反復すると音楽が続くね。 ・ふせんをつけて、楽譜をつくるんだね。 <p>4 グループに分かれて、つくったリズムを重ねる。 「グループに分かれて練習し、つくったリズムを重ねましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面白い感じになるように、ベースのリズムから順番に入ってみよう。 ・何回かくり返そう。 ・楽しい感じになるように、かざりのリズムは自由に入れてみよう。 ・身体を動かしながらすると楽しくなるね。 <p>5 つくった音楽を何グループか発表し、全体で聴き合う。 「感じに合った音楽になっているかどうか、聴きましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入り方が工夫されていて、面白い感じがしたよ。 ・突然かざりのリズムが入って楽しかったよ。 <p>6 次時の予告をする。 「次時は、はじめと終わりの音楽を考えましょう。」</p>	<p>*範奏を聴き、どのような工夫をしているのか全員で試してみることににより、これからの活動の見通しをもつことができるようにする。</p> <p>*楽譜を提示し、全体で、リズムの重ね方、楽譜のつくり方などを確認することにより、グループ活動がスムーズにできるようにする。</p> <p>○グループ用の楽譜 (アレンジカード) を用意し、話し合った工夫を書き込む。</p> <p>*鑑賞の活動で学んだ、音色・リズム・速度・強弱・反復・変化などの音楽を形づくっている要素を聴き取り、そのよさを感じ取る力を生かすことにより、つくったリズムを重ねることができるようにする。</p> <p>*感じに合った音楽になっているかを交流することにより、つくった音楽のよさを認め合うことができるようにする。</p> <p>○民謡の曲の感じを生かして、つくったリズムをどのように重ねたのかを、学習カードに書くようにする。</p>	<p>【イー①】</p> <p>鑑賞の活動で学んだ、音色・リズム・速度・強弱・反復・変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、どのようにつくったリズムを重ねるかについて自分の考えや見通しをもっている。</p> <p>(つくっている様子の観察・演奏の聴取・発言・アレンジカード・学習カード)</p>

(3) 評価活動の実際

【音楽表現の創意工夫】(3/6時)

評価の視点とその具体の姿	
<p>○評価の視点</p> <p>【イー①】</p> <p>鑑賞の活動で学んだ、音色・リズム・速度・強弱・反復・変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、どのようにつくったリズムを重ねるかについて自分の考えや見通しをもっている。</p>	
<p>○支援が必要とされる子どもへの働きかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> グループ学習で、音楽を形づくっている要素を生かして音楽をつくることができにくい子どもには、板書を見たり、グループの友だちの意見を聞いたりして、音楽をつくるように助言する。 表現の工夫に気付きにくい子どもには、グループのめあてを意識して聴くように助言する。 	<p>○質的に高まった状況</p> <ul style="list-style-type: none"> よりよい演奏にしようと、グループのみんなに積極的に声をかけている。 表現の仕方を工夫し、曲想や音楽を形づくっている要素を生かした演奏をしている。
<p>○具体的な評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 鑑賞の活動で得た、音楽を形づくっている要素を聴き取り、そのよさを感じ取る力を生かし、つくったリズムをどのように重ねるかどうかを、つくっている様子の観察・演奏の聴取・発言・アレンジカード・学習カードから見取る。 	

(4) 板書計画

民謡の曲の感じを生かして、つくったリズムをどのように重ねるとよいだろう。

各グループの曲の感じ

1 :

2 :

3 :

4 :

アレンジカードのつくり方の例

	1小節	2	3	4	5	6	7	8
A								
B								
C								
D								

重ね方の例

A	—
B	—
C	—
D	—

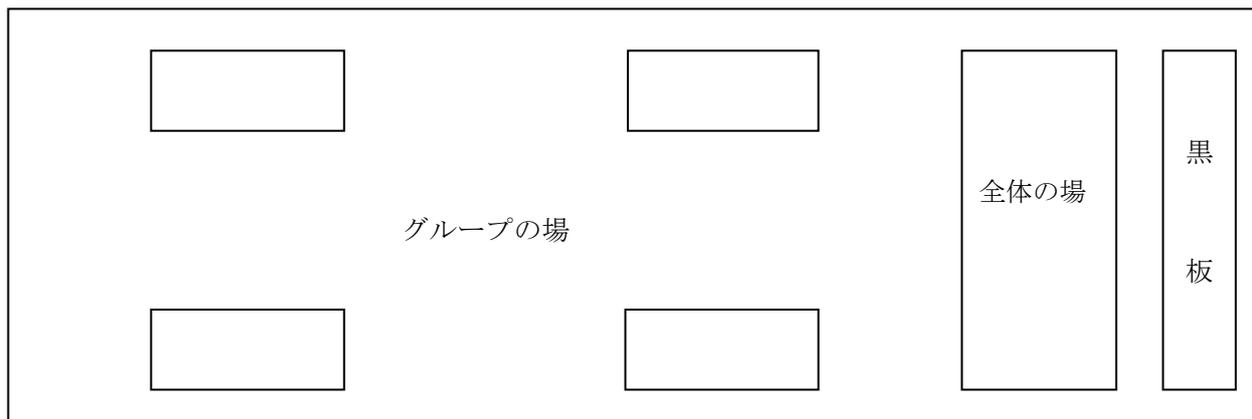
A	—
B	—
C	—
D	—

A	—
B	—
C	—
D	—

A	—	—
B	—	—
C	—	—
D	—	—

A	—	
B	—	—
C	—	—
D	—	

(5) 活動の場



1 1 本時の学習（4／6時）

(1) 目標 鑑賞の活動で学んだ、音色・リズム・速度・強弱・反復・変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、どのようにまとまりのある音楽をつくるかについて、自分の考えや願い、意図、見通しをもつ。

(2) 展開

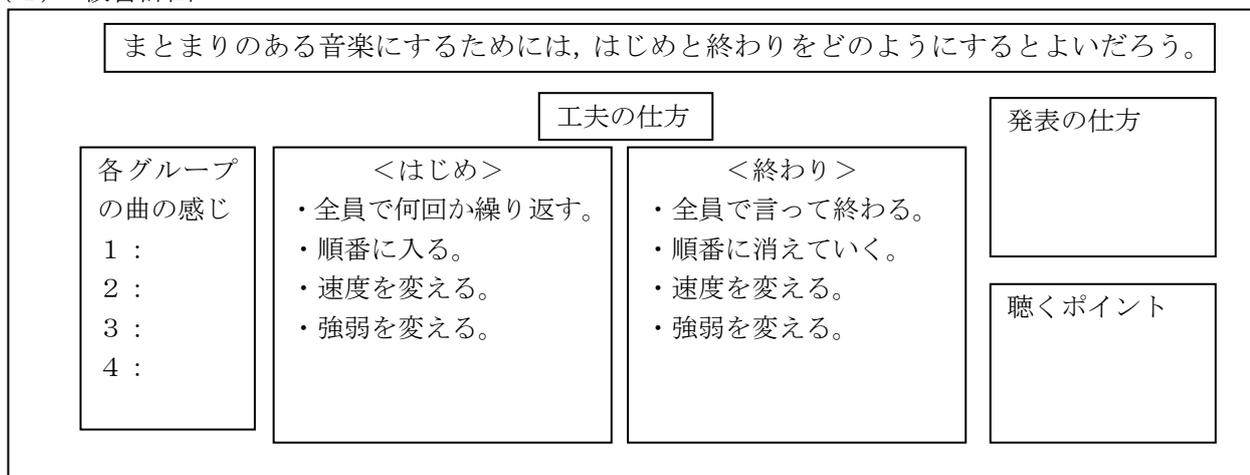
学習活動 「 」発問 ・子どもの反応	*支援 ○留意点 本研究との関わり	評価の視点 (評価の方法)
<p>1 前時の学習を想起する。 「グループでつくった音楽を確認しましょう。」</p> <p>2 本時のめあての確認をする。</p>	<p>*前時の学習を想起することにより、学習の見通しをもつことができるようにする。</p>	
<p>まとまりのある音楽にするためには、はじめと終わりをどのようにするとよいだろう。</p>		
<p>3 音楽をつくるときの工夫について、全体で話し合う。 「全体で、はじめと終わりのつくり方を確認しましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなはじめ方や終わり方の工夫があるんだね。 ・はじめと終わりがあれば合わせやすいね。 <p>4 グループに分かれて、更に工夫する。 「グループに分かれて、はじめ・中・終わりのまとまりのある音楽をつくりましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめは、少しずつ速くして入ろう。 ・中で強弱をつけてもいいね。 ・終わりは、全員ではやしことばを言っておわろう。 	<p>*節奏を聴き、どのような工夫をしているのか全員で試してみることににより、これからの活動の見通しをもつことができるようにする。</p> <p>*全体ではじめと終わりのつくり方などを確認することにより、グループ活動がスムーズにできるようにする。</p> <p>○グループ用の楽譜（アレンジカード）を用意し、話し合った工夫を書き込む。</p> <p>*鑑賞の活動で学んだ、音色・リズム・速度・強弱・反復・変化などの音楽を形づくっている要素を聴き取り、そのよさを感じ取る力を生かすことにより、まとまりのある音楽をつくることのできるようにする。</p>	<p>【イー②】</p> <p>鑑賞の活動で学んだ音色・リズム・速度・強弱・反復・変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、どのようにまとまりのある音楽をつくるかについて、自分の考えや願い、意図、見通しをもっている。</p> <p>(つくっている様子の観察・演奏の聴取・発言・アレンジカード・学習カード)</p>
<p>5 つくった音楽を何グループか発表し、全体で聴き合う。 「感じに合った音楽になっているかどうか、聴き合いましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面白い感じになるように、はじめはだんだん速くしました。中は、だんだん強くして、終わりにはやしことばを全員で言いました。聴いてください。 ・工夫がよくわかって、まとまった音楽に聴こえたよ。 	<p>*どんな感じになるように音楽を工夫してつくったのかを伝えてから発表することにより、聴くポイントをもって聴くことができるようにする。</p> <p>*感じに合った音楽になっているかを交流することにより、つくった音楽のよさを認め合うことができるようにする。</p>	
<p>6 次時の予告をする。 「次時は、つくったはやしことばの音楽を発表しましょう。」</p>	<p>○どのようにしてまとまりのある音楽をつくったのかを、学習カードに書くようにする。</p>	

(3) 評価活動の実際

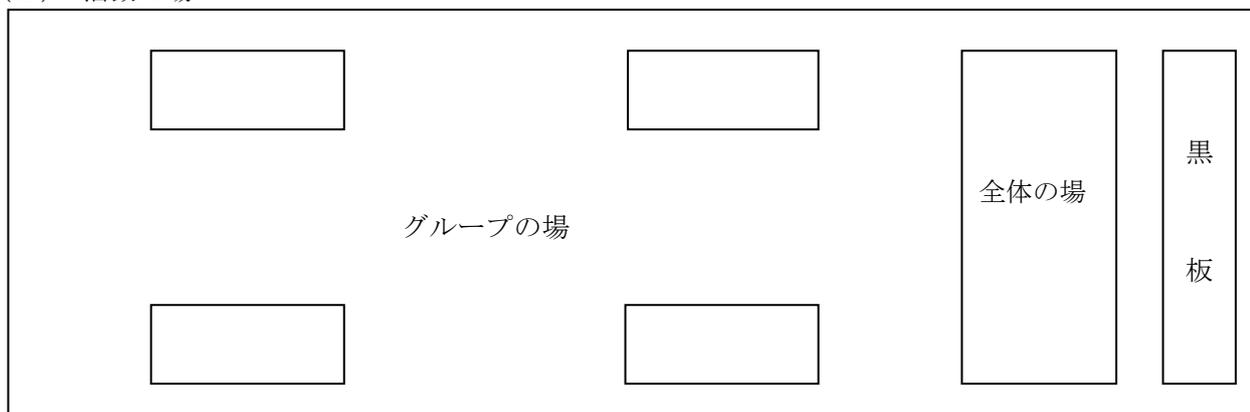
【音楽表現の創意工夫】(4/6時)

評価の視点とその具体の姿	
○評価の視点 【イー②】 鑑賞の活動で学んだ、音色・リズム・速度・強弱・反復・変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、どのようにまとまりのある音楽をつくるかについて、自分の考えや願い、意図、見通しをもっている。	
○支援が必要とされる子どもへの働きかけ ・グループ学習で、曲想や音楽を形づくっている要素を生かして音楽をつくることができにくい子どもには、板書を見たり、グループの友だちの意見を聞いたりして、音楽をつくるように助言する。 ・表現の工夫に気付きにくい子どもには、グループのめあてを意識して聴くように助言する。	○質的に高まった状況 ・よりよい演奏にしようと、グループのみんなに積極的に声をかけている。 ・グループの表現の工夫について、的確に意見を言っている。
○具体的な評価方法 ・鑑賞の活動で得た、音楽を形づくっている要素を聴き取り、そのよさを感じ取る力を生かして、どのようにまとまりのある音楽を工夫しているかどうかを、つくっている様子の観察・演奏の聴取・発言・アレンジカード・学習カードから見取る。	

(4) 板書計画



(5) 活動の場



1 1 本時の学習（5／6時）

- (1) 目標 鑑賞の活動で学んだ、反復や変化などの音楽の仕組みを生かし、見通しをもってまとまりのある音楽をつくる。
- (2) 展開

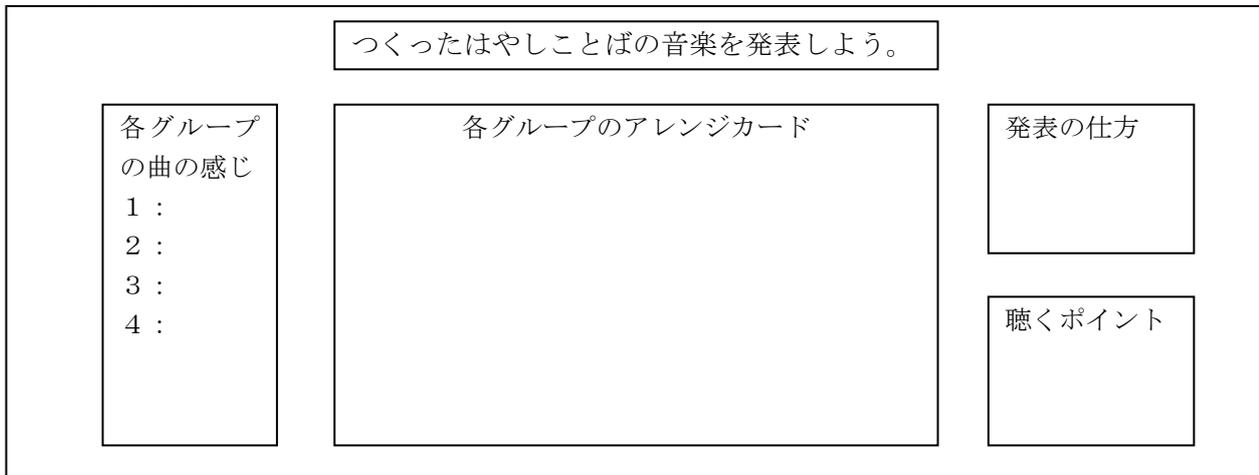
学習活動 「 」発問 ・子どもの反応	*支援 ○留意点 本研究との関わり	評価の視点 (評価の方法)
<p>1 前時の学習を想起する。 「グループでつくった音楽を確認しましょう。」</p> <p>2 本時のめあての確認をする。</p>	<p>*前時の学習を想起することにより、学習の見通しをもつことができるようにする。</p>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">つくったはやしことばの音楽を発表しよう。</div>		
<p>3 グループに分かれて、音楽を仕上げる。 「グループに分かれて最後の練習をし、音楽を仕上げましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感じに合う音楽にしよう。 ・お互いのパートをよく聴いて合わせよう。 <p>4 つくった音楽を発表し、全体で聴き合う。 「つくったはやしことばの音楽を発表しましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面白い感じになるように、はじめはだんだん速くしました。中は、だんだん強くして、終わりにはやしことばを全員で言いました。聴いてください。 <p>5 次時の予告をする。 「次時は、もう一度民謡を聴き、曲の魅力を探りましょう。」</p>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>*鑑賞の活動で学んだ、反復や変化などの音楽の仕組みを生かすことにより、まとまりの音楽をつくることができるようにする。</p> </div> <p>*発表は録画・録音することにより、後で確かめることができるようにする。</p> <p>*感じに合った音楽になっているかを交流することにより、つくった音楽のよさを認め合うことができるようにする。</p> <p>○どのようなことに気を付けて音楽をつくったのか、また、他のグループの発表を聴いてどのようなことに気付いたのかなどについて、学習カードに書くようにする。</p>	<p>【ウー①】 鑑賞の活動で学んだ、反復や変化などの音楽の仕組みを生かし、見通しをもってまとまりのある音楽をつくっている。 (演奏の聴取・発言・アレンジカード・学習カード)</p>

(3) 評価活動の実際

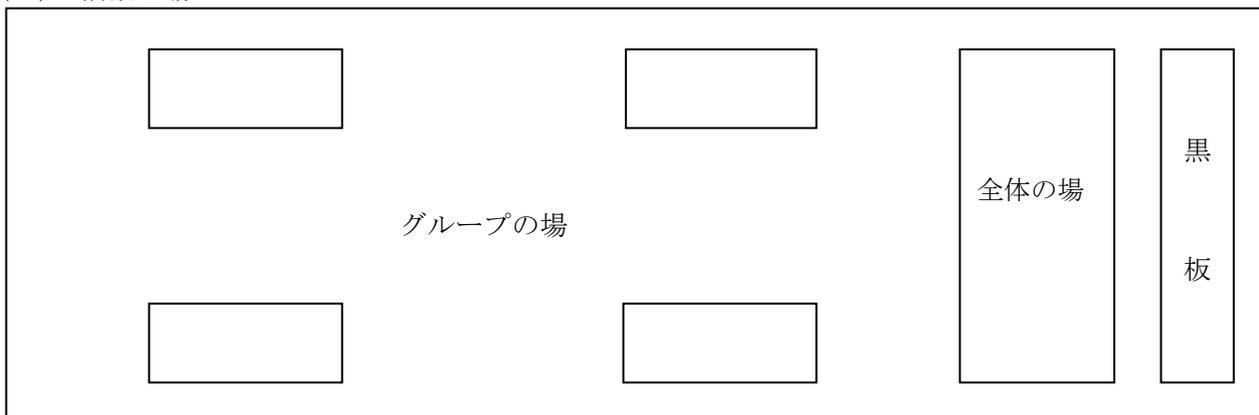
【音楽表現の技能】(5/6時)

評価の視点とその具体の姿	
○評価の視点 【ウー②】 鑑賞の活動で学んだ、反復や変化などの音楽の仕組みを生かし、見通しをもってまとまりのある音楽をつくっている。	
○支援が必要とされる子どもへの働きかけ ・音楽を形づくっている要素を生かして音楽をつくることができにくい子どもには、アレンジカードをよく見たり、グループの友だちの意見を聞いたり、友だちの音をよく聴いたりして、音楽をつくるように助言する。	○質的に高まった状況 ・よりよい演奏にしようと、グループのみんなに積極的に声をかけている。 ・表現の仕方を工夫し、音楽を形づくっている要素を生かした演奏をしている。
○具体的な評価方法 ・鑑賞の活動で学んだ、反復や変化などの音楽の仕組みを生かして、それぞれが作った音楽のよさを聴き合いながら、まとまりのある音楽をつくっているかどうかを、演奏の聴取・発言・アレンジカード・学習カードから見取る。	

(4) 板書計画



(5) 活動の場



1 1 本時の学習（6 / 6 時）

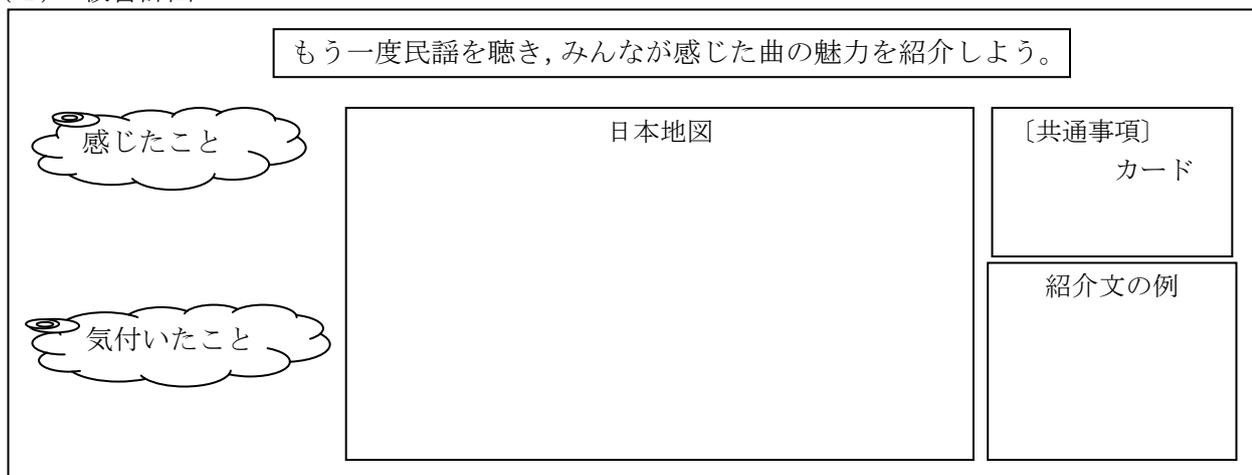
- (1) 目標 音楽づくりの活動で培った力を生かし、曲想とその変化などの特徴や音色・リズム・速度・強弱・反復・変化などの関わり合いから、想像したことや感じ取ったことを紹介文に表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴く。
- (2) 展開

学習活動 「 」発問 ・児童の反応	*支援 ○留意点 ■本研究との関わり	評価の視点 (評価の方法)
<p>1 前時の学習を想起する。 「前時につくった、自分たちの音楽を視聴しましょう。」 ・グループでまとまりのある音楽をつくることができたね。</p> <p>2 本時のめあての確認をする。</p>	<p>*前時に録画したものを視聴することにより、自分たちのつくった音楽を確かめることができるようにする。</p>	
<p>もう一度民謡を聴き、みんなが感じた曲の魅力を紹介しよう。</p>		
<p>3 グループで選んだ民謡を聴き、感じたことや気付いたことを話し合う。 「もう一度聴いて、感じたことや気付いたことを話し合ひましょう。」 ・声が高くなったり低くなったり変化しているから面白いね。 ・はやしことばがくり返し聴こえてくるよ。</p> <p>4 全体で交流する。 「第1時に書いた紹介文と比べて、新たに気付いたことはありますか。」 ・特にはやしことばに注目して聴いたよ。 ・にぎやかな感じがしたのは、声の高さの違いがあるからだわかったよ。 ・仕事をしているときの民謡は、低い声が強くて、力強い感じがしたよ。</p>	<p>*グループに分かれて、感じたことや気付いたことを話し合うことにより、選んだ民謡の魅力にせまることができるようにする。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">*何回か曲を聴くことにより、音楽を形づくっている要素である音色・リズム・速度・強弱・反復・変化などに気付くことができるようにする。</p> <p>*第1時に書いた紹介文と比べることにより、音楽づくりの活動を通して身に付いた力を実感することができるようにする。</p>	<p>【エー②】 音楽づくりの活動で培った力を生かし、曲想とその変化などの特徴や音色・リズム・速度・強弱・反復・変化などの関わり合いから、想像したことや感じ取ったことを紹介文に表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴いている。 (聴いている様子の観察・発言・紹介文)</p>
<p>5 曲の魅力を伝える紹介文を書く。 「音楽を形づくっている要素を使って、紹介文を書きましょう。」</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>(紹介文の例) 「木曾節」は、長野県の民謡です。仕事をしている人々によって歌われたといわれています。「ナンチャラホイ」や「ヨイヨイヨイ」のはやしことばが使われています。のぼす音が多く、「ナンチャラホイ」は声が高くなったり低くなったりして面白いです。はやしことばは、何回かくり返して出てきます。ぜひ聴いてみてください。</p> </div>	<p>*例文を提示することにより、紹介文の書き方の参考になるようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>*①使われているはやしことば ②音楽を形づくっている要素などを用いて紹介文を書くことにより、曲の特徴や演奏のよさを伝えることができるようにする。</p> </div> <p>*日本地図に表して掲示することによって伝えることにより、目的意識をもって紹介文を書くことができるようにする。</p>	
<p>5 紹介文を発表し、それぞれの民謡の魅力を味わう。 「紹介文を発表し、交流しましょう。」 ・各グループが選んだ民謡に、それぞれの良さがあるね。 ・どんなときに歌われるかによって、速度や強弱などが違うね。 ・はじめに書いたときと比べて、よく聴き取れているね。 ・ほかにどんな民謡があるのか知りたいな。</p>	<p>*発表したあとにその民謡を鑑賞することにより、曲の魅力を紹介文と照らし合わせながら味わうことができるようにする。</p> <p>*民謡が長い間受け継がれてきたことを改めて知ることにより、我が国や郷土の伝統音楽を大切にしたいという思いをもつことができるようにする。</p>	

(3) 評価活動の実際
【鑑賞の能力】(6/6時)

評価の視点とその具体の姿	
<p>○評価の視点 【エー②】 音楽づくりの活動で培った力を生かし、曲想とその変化などの特徴や音色・リズム・速度・強弱・反復・変化などの関わり合いから、想像したことや感じ取ったことを紹介文に表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴いている。</p>	
<p>○支援が必要とされる子どもへの働きかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素が聴き取りにくい子どもには、既習の学習や、[共通事項]カードの掲示を見て、どれにあてはまるか考えるように助言する。 ・紹介文を書くことができにくい子どもには、グループで交流したことや例文を参考にしたり、音楽を形づくっている要素を使って書いたりするように助言する。 	<p>○質的に高まった状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感じたことや気付いたことについて、音楽を形づくっている要素を用いて、積極的に発言している。 ・音楽を形づくっている要素を的確に用い、紹介文を書いている。
<p>○具体的な評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴いているかどうかを、聴いている様子の観察・発言から見取る。 ・音楽づくりの活動で培った力を生かして、音楽を形づくっている要素の関わり合いを感じ取っているかどうかを、紹介文から見取る。 	

(4) 板書計画



(5) 活動の場

